

議員も町幹部も候補地に反対!

高レベル放射性 廃棄物地層処分に係る 公開質問状の回答のおしらせ

二丈町のみなさま

私たちは、玄海原発現地で原発問題と環境問題に取り組んでいる「からつ環境ネットワーク」、自然エネルギー普及活動をしている「たんぼぼとりで」(福岡市)、株主の立場で九州電力に情報公開と健全経営を求める「九電消費者株主の会」、および「脱原発ネットワーク・九州」という団体です。

2月26日の毎日新聞記事「(高レベル)放射性廃棄物最終処分場二丈町で誘致の動き」を見ました。地方財政が悪化する中、国は、補助金を一気に5倍にあげました。しかし、お金と危険性が絡むと町の意見は二分され、取り返しのつかない騒動になります。

●私たちは、美しく人情豊かな二丈町が、全国各地に点在する、町おこしの会議も開けないような、しこりを抱えた町になってほしくありません。

●二丈町の農海産物を安心して食べ続けます。

●放射能の処分場が来れば、唐津も福岡も他人事ではなく、自分の町の問題と同じことです。

記事には「町長は反対の立場を明言」とありましたが、町の責任者や議員の考え、事実関係を知りたいと思い、アンケートを実施しました。

3月16日、町長、助役、収入役、教育長と町議会議員全員(19名)に郵送。

質問は12項目、回答は「はい」「いいえ」「自由記述」の3つです。選挙前の多忙な中にも拘らず、幹部を含む9名の方に丁寧な回答をいただきました。

「わからない」(1人)をのぞく、回答者全員が最終処分場の候補地になることに反対とあり、安心しました。

心からお礼申し上げます。

参考

最終処分場を断った自治体

福井県和泉村 高知県佐賀町 熊本県御所浦町 鹿児島県笠沙町
滋賀県余呉町 鹿児島県宇検村 高知県津野町 長崎県対馬市
鹿児島県南大隅町など

アンケート回答を要約してお知らせします。

Q 1980年代、高レベル放射性廃棄物の地層処分候補地として、全国28道府県88ヶ所の地域が地元自治体に知らされることなく、こっそり調査されていたことをご存知ですか、又そのことをどう思いますか？

ご存知の方は1人(議員)。

知らなかった方で「調査の必要はあろうが、秘密裏にはよくない(議員)。

「大変卑怯なやり方処理処分方法の確立が先(議員)。

「そういう情報は公開されるべき(町幹部)」というご意見です。

Q 高レベル放射性廃棄物には、100万年もの間、放射能が減らない物質が入っていることをご存知ですか？

ご存知の方は4人(議員)。

ご存知でないと回答は5人(議員2人、町幹部3人)

Q 新聞報道に関して、記事の内容に間違いはないでしょうか？

「はい」という方は3人(議員2人、町幹部1人)、「いいえ」の方は3人(議員)。「そもそも事実を知らない(議員)」、「町は関与してないので詳細不明」(町幹部)など。

Q 新聞報道に関してご意見を。

「マスコミを100%信用しないが今回はよくわからない(議員)。

「研修会に参加したが、その後集まりや協議はない。どこから出た情報か説明して欲しい(議員)。

「二丈町が誘致の動きをしているように受取れる

報道がなされたので、本町及び近隣市町の住民の皆様等に大変心配をかけ迷惑している」(町幹部)、「誘致請願に関しては全くのデタラメ(議員)」、「許されないことが進行しているというのが実感、住民の安全を守るのが自治体の責務。視察や説明会に参加した町幹部や議員は新聞報道の内容を住民に明らかにすべき(議員)。

「新聞記事については概ね間違いはない。しかし「請願」「誘致」ということについては納得しない。新聞報道は「怖い」。「無機質のペン」で「客観的」に報道されるから、読者の判断によってどうにも解釈される。十分な知識も持たずに勉強会に参加した人、或いは、廃棄物処分は避けてとおれない事実として参加した人、その方達の生活・職業・交際に大きな影響を及ぼす。今まで友達でいた人が、突然敵対される。(町幹部)。

「報道一般に関して読む側は全幅の信頼をおいているが、必ずしも事実の報道ばかりではない。この頃、時として少々事実誤認があることを知りがっかりすることがある(議員)。

「報道とはできごとを広く世間に知らせること。報道の自由です。何も心配いりません(議員)

Q 地層処分は世界のどの国も未だ確立できていない技術であることをご存知ですか？

「はい」は3人(議員)。

「いいえ」は4人(議員2人、町幹部2人)。

「知らない」1人(議員)

Q 文献調査が決まると『核のゴミ福岡』という風評がたち一次産品販売や観光に悪影響があると思いますか？

「影響がある」は7人(議員5人、町幹部2人)。

文献調査に応募することは絶対はない(町幹部)。

「わからない」(議員2人)

放射性廃棄物最終処分場

対馬市議会 反対決議へ

有罪市議へ 辞職再勧告も



反対派住民ら 安全性に疑問

原環機構招き初の勉強会
【対馬】高レベル放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから安全性に対する疑問の声が相次いだ。二丁敷人が参加。同機構の担当者から、地下二百メートルの深さに埋蔵する放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから「安全性に疑問」という声が出た。二丁敷人が参加。同機構の担当者から、地下二百メートルの深さに埋蔵する放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから「安全性に疑問」という声が出た。

Q 文献調査が決まると新年度から最高年間10億円の交付金がでます。財政建て直しと町活性化に役立ちますか？

「はい」は1人(議員)、
「いいえ」は5人(議員3人、町幹部2人)、
「わからない」1人(議員)、「10億という高額は住民サービスに大いに役に立つ。が、町で検討もされていない。話にもものぼっていない仮定の話については答えようがない」(議員)

Q 住民や議会の過半数が反対しても、首長の応募で文献調査を進めるという国の仕組みは「地方自治住民自治」にある公正なものとお考えですか？

「はい」はなし。
「いいえ」は8人(議員5人、町幹部3人)、
「わからない」1人(議員)

Q 二丈町が高レベル放射性廃棄物最終処分場の候補地になることに反対ですか？

賛成はなし。
「反対」は7人(議員5人、町幹部2人)、
「わからない」1人(議員)

Q 他にご意見があれば

候補地に応募した高知県東洋町は「金と引き換えの放射能はいらない」という住民の声が広がっている。二丈町でも急速な「反対」の声を広げることがある(議員)。

日々便利な文化的な生活をしている、また、地球温暖化防止に取り組む我々が、原発の恩恵を受けているのに、「処分場はイヤだ」というのでは身勝手すぎるかもしれないが、「わが町が引きうける」という考えも全く出てこない。人間の身勝手、エゴに少々気がとがめる(議員)。

最終本会議に提出することを申し合わせた。いずれも可決される見通し。最終処分場誘致の反対決議案は市議十三人の連名で賛否論議で市民感情が二分されることや処分場の危険性、風評被害などに懸念を示し、「風光明媚な先祖代々受け継いできた対馬と人情豊かな島民性を守り抜くことこそ子々孫々に対するわれわれの使命」として絶対反対を訴えている。

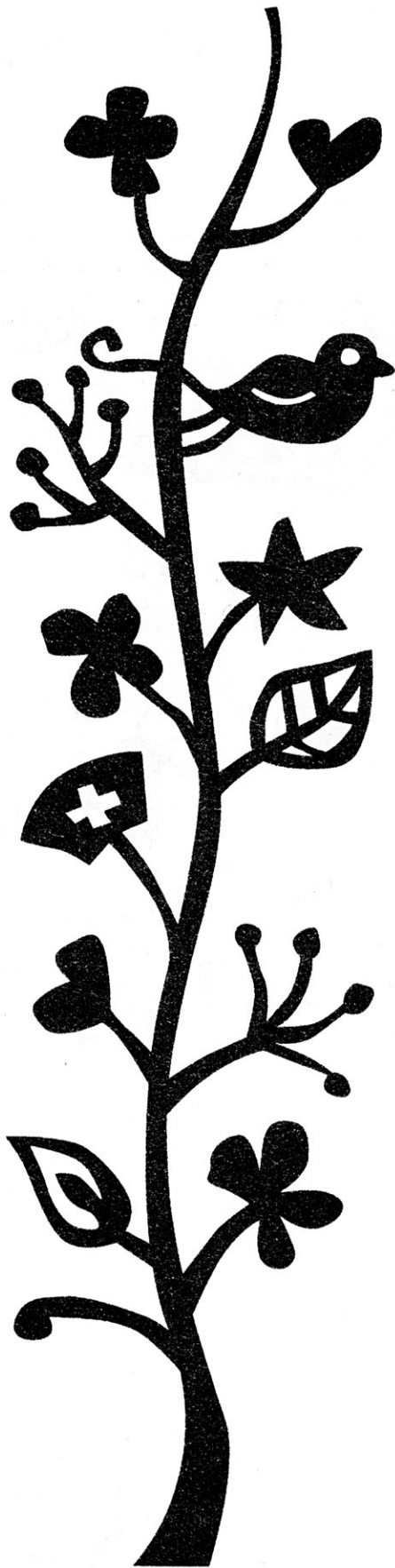
処分場をめぐっては、誘致推進派の住民や一部市議が処分場候補地を公衆として絶対受け入れろと募っている原力発電環境整備機構の担当者を招き、二丁敷人が参加。同機構の担当者から、地下二百メートルの深さに埋蔵する放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから「安全性に疑問」という声が出た。二丁敷人が参加。同機構の担当者から、地下二百メートルの深さに埋蔵する放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから「安全性に疑問」という声が出た。

長崎新聞2007年3月17日
この後、3月19日に「高レベル放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する決議案」は可決された。

しい専門家を招くなどして勉強会を続けている。松村市長は「安全性が確認できず、風評被害が心配」として誘致しない考え。金子知事も「被爆県として絶対受け入れろと募っている原力発電環境整備機構の担当者を招き、二丁敷人が参加。同機構の担当者から、地下二百メートルの深さに埋蔵する放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから「安全性に疑問」という声が出た。二丁敷人が参加。同機構の担当者から、地下二百メートルの深さに埋蔵する放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する対馬市の住民らから「安全性に疑問」という声が出た。」

余呉町 町長断念 (12/7)の理由

- 住民の理解が得られなかった
- 財政危機は交付金に頼らず、住民の力で乗り越えたい。
- 町長の残りの任期が短いので、応募は困難。
- ★安全と考えてきたが、そうでないことが分かり勉強不足であった



原子力発電と放射能のゴミのこと

🌱 原発はクリーンって聞いたけど？

とんでもない。産業廃棄物なんてくらべものにならないほど毒性の強い放射性廃棄物という放射能をもつゴミがたまります。そして、点検や補修のたびに労働者が放射能被爆しています。

🌱 放射能のゴミって？

そのゴミは高い放射能をもっていて熱を出し続けているのです。だからチェルノブイリのような事故が起こってそれが原子炉から環境中に出たら取り返しがつかないことになります。

🌱 放射能のゴミってどのくらい出るの？

佐賀の玄海原子力発電所4基・1年間で広島原爆の約3000発分の放射能をもつゴミがたまります。このゴミから放射能の毒性が消えるまでにおよそ3万年かかるといわれています。日本中の原発でこのゴミがたまり続け、置き場に困るようになって来ました。

🌱 いったいどうするの？

国はガラスに溶かして固めたものを地下に埋めようと計画していますが、どこの国もやったことのないこと。技術的に確立されたものではありません。

🌱 ピンチはチャンス！

私たちの考えは、こんな放射能のゴミを出す原発を止めていくこと。
(ここ数年で冷蔵庫やクーラーなど電気製品の省エネがすすんできました。だから、夏場のピークを乗り越える工夫をすれば、古くなった原発から順次止めていくことが出来るはずです。)放射能をもつゴミは当分原発敷地内で静かに冷やし保管しつづけること。見えないと押し込んでしまったらいったん漏れ出した時に手がつけられないことになってしまうからです。

私たちは電気を使ってきました。しかし、ゴミ問題を知らせないまま、原発に頼る発電を続けてきた国の責任こそ問われるべきものです。自治体に押し付けることはその問題をまたしても先延ばしにしまいます。出来たゴミを何とかしなければという発想は、本当の解決にはつながらないのではないのでしょうか。放射能をもつゴミを引き受ける自治体が名乗りを上げたら、それを理由に原発はどんどんゴミを出し続けてしまいます。それは未来の子ども達へ「放射能をもつゴミ」という負の遺産を際限なく押し付けていくことです。

私たちの子どものそのまた子どものそのまたまた子ども…その未来の子ども達のために私たちはこう考えています。